

メアリ・ハミルトン

1 メアリ・ハミルトンは教会へ行きました
髪にリボンを飾りつけ

王様はメアリに想いを寄せました
出かけた女の誰よりも

2 メアリ・ハミルトンは説教を聞きました
胸にリボンを飾りつけ

王様はメアリに想いを寄せました
神父様の説教も聞かないで

3 お城に噂がたちました
昨日聞いたのはその噂

王様がメアリに恋したのです
女王様を愛するよりも

4 街中に悲しい噂がたちました
朝になつて 悲しい噂がたちました

メアリ・ハミルトンが赤ん坊を産んで
悲しみのあまり刺し殺したと

5 老いた女王様がやってきました
髪に金の飾りをつけ

「赤ん坊はどうしたの
ひどく泣くのが聞こえたが」

6 「この部屋に赤ん坊などおりません
おるはずがございません

わたしのお腹に痛みがさして
体が痛んだだけなのです」

7 「さあ 起きなさい メアリ・ハミルトン
起きてわたしについておいで

馬に乗ってホリルードへ
結婚式を見に行くのです」

8 女王様は真紅の衣裳
お付きの女は緑の衣裳

行く先き先きの街の衆は
メア리를女王と見まちがえ

9 けれども野原を駆け行くときに

メアリは少しも知りません
エディンバラまで出かけて行って
絞首刑になろうとは

10 ネザバウ門へ来たときに
メアリは三回大笑い
絞首台へ登ったときに
涙が流れて眼がみえません

11 「女王様に何度も着物をお着せして
金飾りをおつけした
そのお返しにいただくのがこの絞首台
こんな辱しめを受けようとは

12 「女王様に何度も着物をお着せして
ふんわり床ものべました
そのお返しにいまこうして
絞首台を歩くとは

13 「海を乗り行く粋な船乗りさん
つつがなきようお祈りします
父と母には告げないで
わたしがこうして死んでゆくと

14 「おたのみします 船乗りさん
海をわたって行くときに
父と母とに伝えておくれ
いつかわたしが故郷へ帰ると

15 「お母さんは思いも寄らなかつたはず
わたしを揺籃であやしたとき
わたしが外国をさすらって
こうして死ぬことになろうとは

16 「きのうお仕えたのは四人のメアリ
今宵残るは三人だけ
メアリ・シートン メアリ・ビートン
メアリ・カミカルとわたしの四人」

(薮下卓郎訳)